



工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1
発行人(局長)
佐々木 晃成
(電気科3年)

ものづくり コンテスト

建築科

木材加工部門

スムーズな作業を 時間内の完成目指す

第24回ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会の木材加工部門が6月20日に帯広工業高校で行われる。出場する建築科3年生の野崎留菜さんと2年生の赤間梨緒羽さん、補欠で参加する1年生の安芸綺花さんに取材した。



のこぎりを持つ赤間さん、作業馬を持つ野崎さん、木槌を持つ安芸さん

競技内容は3時間で木材を加工して作業馬(さぎょううま)を作る。平日は3時間、休日は6時間、毎日練習している。個々の部材の奇麗さや全体の収まりを審査される。

野崎さんは「初めての出場だが、時間内に終わらせて良い成績を残せるよう頑張る。本番に向けた木材加工の穴あけ、かんながけ、縦引き、横引き、のみの練習をしている。かんながけで木材を最後まで一直線にかけるのが苦手で、平らにならないのを改善していきたい」と語った。

情報技術科

電子回路組立部門

はんだ付け作業に苦戦 来年は全国を目指す

情報技術科3年生の梶原春希君と2年生の香林秀明君、小林瑠生伽君は5月24日に札幌琴似工業高校で行なわれた第24回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会の電子回路組立部門に出場した。

梶原君は「はんだ付けの作業が難しく、勝負にならなかった。得意のプログラミンクまでいけず、悔しかった。2年生の2人は来年もあるので頑張りたい」と語った。香林君は「思っているよりも課題が難しく、作業できない

速い行動を意識

サッカー部部長
村上優馬君(機3)



趣味はスノーボード

旭エ ライフ

5月21〜24日に東光スポーツ公園で男子15校346名、女子2校42名が参加した高体連支部大会で当番校を務めた。ゴールや得点板などの準備やけがをした選手を担架で運ぶなど試合をサポートした。大会運営では顧問の先生方からの指示にできる限り速く行動できるように心がけた。

選手の保護者や観客、各校の顧問の先生方が気持ち良く試合を観戦できるように当番校業務を行なった。良かった点は強いチームの試合を見られたこと、サッカーの試合が多くの人たちに助けられて運営されていることを実感したこと。部員は3年生9人、2年生18人、1年生9人で活動している。支部大会では旭川永嶺高校と対戦し0-3で1回戦敗退だった。後輩には練習でプレイスキルや戦術を伸ばし、他のチームに勝てるようになってほしい。

ズに作業を行なえるよう改善していく」と語った。安芸さんは「時間内に完成できるように頑張っている。特に穴あけの練習をしている。かんながけの練習をしないようにしていきたい」と語った。指導をしている西川聡仁先生は「やるからには優勝してほしいが、優勝しなくても悔いのないように頑張ってもらいたい」と語った。

生は「やるからには優勝してほしいが、優勝しなくても悔いのないように頑張ってもらいたい」と語った。

い、はんだ付けの練習をあまりできなかったのが敗因。部品の使い方を調べる時間がなかったのも、もっと時間に余裕を持たせるべきだった」と語った。「今回の反省を生かして、来年の大会に向けて練習に励む。本番に万全な状態で挑み、全国に行けるように頑張る」と意気込んでいる。

局説

国語の時間に「バグダッドの靴磨き」という小説を学習した。イラク

戦争で12歳の少年が家族全員を戦争で失ない、アメリカ軍への復讐を誓う話だ。戦争は12歳の少年の心を壊し、復讐のために殺人をしよつと決意させる。

小さなことから平和を

ロシアとウクライナの戦争は3年目に突入し、パレスチナ問題は悪化し、戦争や紛争は世界から一向になくならない。世界平和に向けて何故

剣道部 山田君 初段の部で 全道準優勝



自信にあふれる山田君(電一)

剣道部の山田君(電一)が5月26日に千歳市で行なわれた第70回北海道剣道段別選

手権大会に出場し、初段の部で準優勝した。

山田君は「強気に攻めていくことを意識し、ほとんどの試合で制限時間内に決着をつけた。決勝戦で一本先取された。決勝戦で一本先取された。次に取り返したが、また一本取られ優勝を逃した。今後は切り返されても得意な面の技術を向上させ、攻められるようにする。優勝は逃したが、初段の中では道内で2番目に強いことに自信を持ち、練習に励みたい」と語った。



工具箱

私は高校に入學してから無遅刻無欠席だ。睡眠や食生活、体調管理など健康に気を付けているからだ。特に大切にしているものがある。それは善玉菌だ。善玉菌と聞いて何を思い浮かべるだろうか。たぶん乳酸菌やビフィズス菌だろう。善玉菌はヨーグルトや納豆などの発酵食品に多く含まれているが、ほかにもヤクルトやR-1ヨーグルトなどの乳酸菌飲料にも含まれている。私は皆さんにヨーグルトと乳酸菌飲料をお勧めする。特にヨーグルトには乳酸菌やビフィズス菌などの様々な善玉菌が含まれていて、健康を維持するためには欠かせないのでない食品だ。また乳酸菌やビフィズス菌などの善玉菌は腸内環境を整える働きがある。この働きによって免疫力が向上するのはもちろん、便通の改善やコレステロール低下などの効果も期待できる。また、善玉菌は一定期間を過ぎると腸内から消えてしまうため、毎日継続的に摂取するのが望ましい。私は中学校に入學してから善玉菌を毎日継続的に摂取し効果を実感している。便通は改善し、肌つやも良くなった。そのなかでも特に免疫力の向上を実感している。以前はよく胃腸炎やインフルエンザにかかっていたが、摂取し始めてからはほとんどかからなくなった。3年生は進路を決定する時期となった。皆さんもこの大切な時期に体調を崩さないよう、積極的に善玉菌を摂取して健康を保ってほしい。(電3菅原)

バレー部

全試合ストレート勝ち

ブロックの練度を高める

バレーボール部は5月28、30日に旭川大雪アリーナで行なわれた北海道高等学校総合体育大会バレーボール競技大会旭川支部予選で全試合2、0のストレート勝ちで3年連続優勝し、全道大会出場を決めた。

表彰式で優秀選手賞に部長の森悠人君(土3)、小山悠太君(土3)、松田歩君(機3)の3人が選ばれた。森部長は「チャンスボールが上がってきたときにしっかりと拾いあげ、得点につなげられたのが一番の勝因だ」と大会を振り返り、全道大会に向け「ブロックとスパイクの練度をさらに高め、攻防ともに仕上げる。また、長く集中力を保つためにどれだけ練習で追い込んでいけるかがカギだ」と話した。目標を「札幌の強豪校を破り、ベスト4に進出すること」と闘志を燃やしている。

同じくミドルブロッカーの松田君は「全道大会に向けてもっと身長を生かして一本でも多くスパイクを止め、悔いを残さず、プレーを楽しんで試合を終えたい」と語り、優秀選手に選ばれた感想を「高強くなれたのは旭工だから」と話した。



受賞者の小山君、森君、松田君(左から)

ミドルブロッカーの小山君は「支部大会でブロックしたボールをこぼしてしまった。全道大会に向けてブロックを完璧にしていこう」と意気込んでいる。



空手道の組手の構えをする3人

空手道

団体組手で準優勝

秋好君 組手で優勝

第49回北海道高等学校空手道選手権大会旭川支部予選会が5月25日に留萌高校体育館で行なわれた。土木科2年生の秋好遥輝君と荻原魁大君、小森創介君の3人が5人制の男子団体組手に出場し準優勝、秋好君が個人組手で優勝し、全道大会出場を決めた。

大会は6月12、14日に旭川市で行なわれる。秋好君は誠和会に所属し、週2回、2時間半の練習をしている。「支部大会では資格の勉強とアルバイトで忙しくあまり練習できず、100%の力を出せなかった。高校に入学してからは全道大会で一度も勝つことがないの、まずは1回戦を突破したい。最初はコンディショニングが良かったが、スタミナが切れてしまった。スピードが遅いと攻撃が避けられてしまうので技を速くし、技のキレを良くしたい」と話した。団体では「自分のせいで負けてしまったので、試合をする順番を変えて全道大会に挑みたい」と意気込みを語った。

荻原君は玄制流に所属し、週に2回、2時間半練習している。「攻撃を早くし、相手との間合いを詰めるのを意識している。先鋒なのでできるだけポイントを取り、次につなげていきたい」と抱負を話した。

小森君は誠和会に所属し、基本週2回、2時間半の練習をしている。「蹴りをうまく使えるように意識して練習している。リーチの長さを生かして全道大会に臨みたい」と語った。



山岳部のパーティ、左から2番目が井福大迦君

山岳部は5月15、17日に東川町民運動公園と旭岳で行なわれた第63回北海道高等学校登山競技大会旭川予選会に出場し、団体3位に入賞した。1パーティ4人でチーム行動をとり、登山での体力配分や歩行技術、パーティテストで知識を問われるなど10項目で審査された。山岳部は6月25、28日にニセコ町で行なわれる全道大会に出場する。

山岳部 3位で全道へ 強豪校に食いつく

を付け、強豪の旭川東高校と旭川北高校にどう食いついていくかを考えて取り組んだ。当日は風が強く旭岳の8合目までしか登れなかった。夏しか旭岳に登ることがなく、初めて雪のある旭岳に登れてうれしかった」と大会を振り返った。「全道まで2週間を切っているの、走り込みやテント設営などを重点的に練習していきたい。インターハイ出場を目標に頑張る」と意気込みを話した。

も多くのスパイクを止め、悔いを残さず、プレーを楽しんで試合を終えたい」と語り、優秀選手に選ばれた感想を「高強くなれたのは旭工だから」と話した。

校から始めたのに、ここまで強くなれたのは旭工だからと話した。

週に2回、2時間半練習している。「攻撃を早くし、相手との間合いを詰めるのを意識している。先鋒なのでできるだけポイントを取り、次につなげていきたい」と抱負を話した。

小森君は誠和会に所属し、基本週2回、2時間半の練習をしている。「蹴りをうまく使えるように意識して練習している。リーチの長さを生かして全道大会に臨みたい」と語った。

高体連支部大会等結果

(全道出場のみ)

ソフトテニス部

男子ダブルス ベスト8 中川心太君(化3) 中島寧大君(土3)

陸上部

男子 800m 4位 遠藤颯汰君(情2) 砲丸投げ 7位 沼岡芯喜君(土1) 4×100mR 4位 工藤颯太君(電3) 伊藤奏音君(土3) 鹿間翔太君(化2) 鷗飼知也君(建2) 4×400mR 6位 工藤颯太君(電3) 鹿間翔太君(化2) 鷗飼知也君(建2) 遠藤颯汰君(情2)

柔道部

男子個人 73kg級 2位 澁谷龍斗君(機3) 66kg級 3位 竹内 空君(電2) 81kg級 5位 稲垣棕也君(土2)

バスケットボール部

3位 (38年連続全道大会出場)

バレーボール部

優勝 (3年連続)

山岳部

3位

空手道

男子 団体 組手 2位 秋好遥輝君(土2) 荻原魁大君(土2) 小森創介君(土2) 男子 個人 組手 優勝 秋好遥輝君(土2)

水泳

男子 400m自由形 優勝 鈴木広大君(電1) 男子1500m自由形 優勝 鈴木広大君(電1)

放送局

研究発表部門 4位 一岡 煌君(情3) 佐藤侑星君(電2)

水泳

鈴木君 2種目で全道

自己ベストをマーク



優勝を喜ぶ鈴木広大君(電1)

鈴木広大君(電1)は6月2日に旭川スイミングスクールプールで行なわれた第77回北海道高等学校選手権水泳競技大会旭川支部予選会で400m自由形と1500m自由形で優勝し、全道大会出場を決めた。全道大会は7月5、

7日に函館市で行なわれる。鈴木君は「会場は緊張感があったが、自分の思ったような泳ぎができ、自己ベストを出せた」と話した。全道大会に向けて「インターハイに出場したいので、前半はペースを落とさず後半でさらに上げていきたい」と目標を語った。また「最後まで体力がもたない、体力づくりのために筋トレを中心にトレーニングをしていきたい」と今後の課題を話した。